

FOCUS Vol.13

長洲町でキラリ輝く人たち

「ひょうたんを使って町をPRしていきたい」
ひょうたんから無限の可能性を生み出す

きた だ かず とし
北田 和利さん (70歳 梅田)



製作に取り組むだけでなく、自らひょうたんの栽培も行う北田さん。形が整ったひょうたんを作るために、一つ一つに愛情をかけて丁寧に育てている。

「ひょうたんで作ったふれきんちゃんを

たくさんの人に見てもらいたいですね」



町役場ロビーに飾られている町マスケットキャラクター「ふれきんちゃん」のオブジェ。材料は木でも粘土でもなく、実はひょうたんを加工して作られている。そんなひょうたんのふれきんちゃんを作ったのが北田和利さんだ。

北田さんがひょうたん作品を作りはじめたのは62歳のとき。鹿児島へ旅行した際に、絵が描かれたひょうたんを見たのがきっかけだった。

「ひょうたんは人間と同じ。一つ一つに違う顔があって同じものがない。そこが魅力なんです」と笑顔を見せる北田さん。これまで製作した作品は数千点に及び、その一つ一つに北田さんの愛情が注がれている。

北田さんが製作したふれきんちゃんのオブジェは、町をPRするためにいろんなところで活躍しているふれきんちゃんを応援したいという思いから作られた。金魚の形を

したふれきんちゃんの独特の形に苦労を重ねながら製作すること約1カ月。使われたひょうたんは30個以上にも及んだ。大きいひょうたんから小さいひょうたんまで、パーツごとに切り貼りしながら、細部に至るまで丁寧に作られている。「ぜひ長洲町のPRに役立ててもらえれば」。手間暇かけて製作されたふれきんちゃんのオブジェは町へ寄贈され、毎日来庁者を出迎えている。

「自分の作品が町のPRにつながるのなら喜んで協力したい」。7月13日からは金魚と鯉の郷広場内「金魚の館」で北田さんの作品が展示される。「ぜひ来場した際は、直接ひょうたんに触ってほしいですね。見て触れて楽しんでもらえれば」とにっこり。

「ひょうたんを使って、これからも町をPRしていきたいですね」と話す北田さん。ひょうたんへの愛情が今、町にも注がれ始めている。